

ダム事業の名称	渡良瀬第二貯水池
所在都道府県、水系、河川名	栃木県ほか 利根川水系 渡良瀬川等
事業者名	国土交通省 関東地方整備局

## 事業の概要・問題点・中止に至る経過・中止理由・その後の状況

### 事業の概要

規模：総貯水容量 1 1 4 0 万 m<sup>3</sup>

目的：洪水調節、都市用水の開発

渡良瀬遊水池は第1～第3の三つの調節池からなる。渡良瀬遊水池にはすでに総貯水容量 2 6 4 0 万 m<sup>3</sup>の渡良瀬貯水池（谷中湖 1 9 8 9 年完成）が第1調節池内にあって、もう一つの平地ダム（平地を掘削してつくる貯水池）を第2調節池内に造る計画であった。



### 事業の問題点

渡良瀬遊水池は本州最大のヨシ原が広がる湿地帯で、多くの希少な動植物が生息・生育している自然の宝庫であるが、渡良瀬貯水池やゴルフ場の建設で遊水池の貴重な自然が破壊されてきている。第二貯水池の建設は遊水池の自然破壊をさらに進めるものであった。

さらに、渡良瀬貯水池は首都圏の水ガメの一つであるが、渡良瀬川の最下流にあるため、浮遊性藻類の異常増殖で水質の悪化がひどく進行しており、第二貯水池も同様に水質の悪化が予想されるものであった。

### 建設の根拠と矛盾

第二貯水池の建設目的のうち、利水については首都圏の水道水の需要が減少の一途を辿っているため、必要性がなくなっている。治水についても渡良瀬遊水池全体としてすでに 1 7 1 8 0 万 m<sup>3</sup>の治水容量があって、それで大洪水への対応が可能となっているので、第二貯水池によって治水容量を増やす必要性も失われている。

### 中止に至る経過

- 1 渡良瀬遊水池の開発に反対する集会（1990）、公聴会で意見陳述、他シンポジウム（10回、うち建設省出席6回）、講演会（2回）、展示会（1回）を開く。
- 2 会報創刊（1991）、ブックレット「渡良瀬遊水池」発刊（1991）、リーフレットと絵はがき作成（1993）、ガイドマップ作成（1995）、「渡良瀬遊水池の動植物実態調査報告書」（1993）等出版。
- 3 「渡良瀬遊水池の開発中止を求める」署名活動と、署名提出（1992年一次提出 34000）に伴う建設省との話し合い。
- 4 渡良瀬貯水池の放流水による水道水のカビ臭事件（1990 江戸川流域）により、貯水池の水質調査開始（1992）、またヨシ原浄化池の水質浄化効果の調査を毎月実施した。
- 5 渡良瀬遊水池の動植物実態調査（植物、昆虫、野鳥）（1992～）
- 6 建設省が「渡良瀬遊水池総合開発（Ⅱ）事業審議委員会」設置し（1995）、計画見直しの審議委員会を開催するに当たり、会員が会場につめ傍聴の要求と、本会から委員への情報提供を徹底した（6回）。
- 7 「渡良瀬遊水池総合開発（Ⅱ）事業審議委員会」が、「計画の2～3年中断」を答申（1996）し、第2次「渡良瀬遊水池自然保全と自然を生かした利用に関する懇談会」が設置されて、代表世話人が委員として出席。会員は毎回傍聴し、懇談会の方向の問題点を明らかにした。

そして、懇談会の提言書作成に当って、代表世話人が積極的発言を徹底的に行った。

- 8 本会は、提言書「渡良瀬遊水池エコミュージアム・プラン」を作成し（1999）、懇談会に提出した。
- 9 「わたらせ未来基金」を発足させ、渡良瀬遊水池の氾濫原として貴重であることを、東京大学生態保全研究室と協働して調査（埋土種子調査）する体制をつくり、成果をえた。
- 10 「渡良瀬遊水池総合開発（Ⅱ）事業審議委員会」が再開され（2001）、「計画中止」を答申し、翌年、正式決定。

### 中止理由

公表された中止の理由は次の2点である。一つは水質問題で、現在の渡良瀬貯水池は浮遊性藻類の異常増殖で劣悪な水質になっており、第二貯水池も同じような水質の悪化が予想されることであった。もう一つは、遊水池の自然の価値をおろそかにできず、その自然を壊す第二貯水池の建設を安易に進めることができないということであった。実際にはそのほかに首都圏の水需要の減少傾向で利水面の必要性が失われてきたことも中止の大きな理由である。

### 中止後の状況

第二貯水池計画の中止に伴って、その計画に含まれていた治水容量の増強は今後検討すべきこととして先送りされたはずであったが、国交省利根川上流河川事務所は2003年度に方針を変えて、治水容量の増強計画の推進を打ち出すようになった。約500万m<sup>3</sup>の予定であるが、これだけ大きな掘削が行われれば、遊水池の自然が大きなダメージを受けることは避けられないので、この反対運動を現在まで続けている。

渡良瀬遊水池は乾燥化の方向にあって、湿地本来の豊かな生物相が後退しつつあるので、湿地の再生が大きな課題となっている。当住民協議会は豊かな自然を取り戻すための「渡良瀬遊水池・エコミュージアム・プラン」を発表し、その実現に取り組んできている。

一方、利根川上流河川事務所もこの湿地再生の問題を取り上げて、治水容量増強を湿地再生と両立させて進める方向を打ち出しており、当住民協議会としてはむしろかしい局面になっている。

### 中止獲得の要因

渡良瀬遊水池は、足尾鉍毒事件を沈静化させるために明治政府が、谷中村を廃村にして造ったところであり、また、栃木・群馬・茨城・埼玉の4県にまたがる本州以南最大のヨシ原であることから、開発反対運動は遊水池の歴史と自然を守るため、利根川流域の住民が結集して進められてきた。この利根川流域住民への運動の広がりによって第二貯水池計画の中止を勝ち取ることができた。

### 中止獲得までに協力を得た団体

谷中村の遺跡を守る会、水源開発問題全国連絡会、東京の水を考える会、日本野鳥の会栃木県支部、渡良瀬の環境を考える会、田中正造大学

### そのほか特に伝えたいこと

関東地方の真ん中に、自然豊かで広大な渡良瀬遊水池があることを多くの人に伝えたい。

当時の団体名	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会
現在の団体名	同上
連絡担当者	猿山 弘子
住所（郵便番号から）	〒328-0053 栃木県栃木市片柳町4-16-1
電話	0282-23-1078
F A X	同上
電子メール	watarase@cc9.ne.jp
ホームページ	<a href="http://www.watarase-kyougikai.org/">http://www.watarase-kyougikai.org/</a>